

校訓 「くじけるな のびよ身と心 大望をもて」



あかぎ

赤木名の子らよ、大木になれ・七本のあかぎ

11月号 平成29年11月27日（月）発行

◀ いのち チャレンジ（挑戦） 感動 感謝 ▶

故郷からの贈り物

校長 前田 和洋

今年度の奄美市教育行政は、教育目標を「地域の中で教え、学ぶ教育・文化のまちづくり」、基本方針を「地域に根ざしたふるさと教育～あまみの子どもたちを光に～」と掲げています。それを受けて本校では、「ふるさと赤木名を愛し、誇りと自信をもつ子どもの育成」を基本目標に掲げました。

私の学童期は、学校で「方言を使わないようにしましょう。」が度々学校の生活目標になるほどで、方言を使っていると叱られる時代でした。島唄や島口は学校では御法度でした。それでも、下校して集落（シマ）に帰ると、友達とは方言を交わしながら遊び、アシャゲでアンマやバアーたちが歌う島唄を聞いて育ちました。

私も含め級友のほとんどは高校を卒業すると都会に出てしまいました。都会へのあこがれもありました。学生時代に関東の郷友会に出席すると、島で結婚や就職をした同窓生を除き、集落の同級生10名のうち8名が集まったのを覚えています。あの頃は、正直故郷の集落（シマ）に誇りを持ってない時期で、出身地を問われると思わず「鹿児島」と言ってしまうました。故郷奄美の良さを紹介することもできませんでした。しかし、都会で生活するうちに集落（シマ）の風土や人々の温かさや懐かしさが自然と心に湧きあがり、徐々に望郷の念を強くしたのを覚えています。長幼の序を重んじ、協力することや助け合うことを当たり前とする「結」の精神、人々の愚直にまで何事にも真剣に正直に取り組む姿勢、温かな人間性等、今考えると良さは枚挙にいとまがありません。少年、青年の頃は、それを煩わしく感じていたのかもしれませんが。

今、学校で島口や八月踊り、太鼓や三味線を地域の方から学び、発表する機会も与えられた子どもたち。相撲やバレーボール、ロードレースを地域の指導者から学ぶ子どもたち。種おろしや敬老会、六月灯等の地域行事の中で地域の皆様に見守られながら学んでいる子どもたちが羨ましもあり、誇らしくもあります。地域の愛情に包まれていることを子どもたちは今は気付かないかもしれませんが。故郷を離れて初めて気付くことかもしれません。それでも、少なくとも本校の子どもたちには、「ふるさと赤木名を愛し、赤木名に誇りと自信を持つ子ども」に育ってもらいたいと願っています。子どもたちが将来、どこに出ても出身地を「奄美市笠利町赤木名」と堂々と言う事ができ、赤木名の良さを紹介し、自慢できる人になることが、私の願いです。

先日も、本校の「ボランティア大作戦」で、本校の高学年児童が各集落の学舎と周辺の清掃をさせていただきました。各区長さんより、丁寧なお礼の言葉をいただきましたが、お礼を申し上げるのは、学校の方です。地域から学ぶ機会を頂き、心から感謝申し上げます。これからも地域からの学びを大切にして参ります。よろしく願い申し上げます。

校内持久走大会について

第56回笠利町内一周駅伝競走大会において選手の皆さんの雨中の激走から、校区民や本校児童に大きな感動を頂いたところです。来る12月1日（金）には、本校の校内持久走大会を開催いたします。日程は下のとおりです。学校や沿道で多くの声援や激励を頂けましたら幸いです。



昨年のスタート風景

開会式 9：20～9：30

3年スタート予定（9：36） 4年スタート予定（9：40）

1年スタート予定（9：50） 2年スタート予定（9：53）

5年スタート予定（10：00） 6年スタート予定（10：06）

毎月第3日曜日の午前中は、家庭の日・市民清掃の日